

社会生活の自立度評価指標（SIM）

作成日：令和6年4月

	R6.4（平均）	R6.10（平均）	R7.4（平均）
1. 健康管理	2.9	順次評価	順次評価
2. 金銭管理	2.0		
3. 身の回りの管理	2.4		
4. 買い物	3.7		
5. 家事活動（調理以外）	2.0		
6. 調理	3.4		
7. 生活のセルフマネジメント	3.3		
8-1. 公共交通機関の利用	3.1		
8-2. 自動車運転	該当者なし		
9. 人間関係	3.6		
10. 仕事・学校	3.1		
11. 地域での余暇活動	2.4		
12. 日中活動	1.0		
13. 制度・サービス活用	2.0		

採点基準

7点 継続自立	継続した自立
6点 自立	現段階で自立
5点 見守り・限定した活動状態	見守り・時々への促し・助言が必要又は限定的な活動
4点 最小支援	少しの支援を必要とする（75%以上自分で実施できる）
3点 中等度支援	部分的な支援を必要とする（50%～75%自分で実施できる）
2点 最大支援	多くの支援を必要とする（25%～50%自分で実施できる）
1点 全面支援	ほとんど支援を必要とする（0%～25%自分で実施できる）

R6.4評価

療育手帳の利用者が多く、買い物、セルフマネジメント、人間関係、就労意欲が比較的高い結果となっている。日常生活に必要なスキルは出来ている方が多いものの、自発的な日中活動への参加や、制度・福祉サービスの利用、金銭管理といった自分自身で考え、整理する必要があるものに関しては苦手な方が多く見受けられたことから、支援プログラムを活用し、利用者の健康への意識を高めたり、余暇活動の幅を広げ生活の質をあげていくことが重要だと考えています。また、全体的に自立度が2点～3点となっているため、様々な経験を積みながら、支援がなくとも出来ることを増やしていくことが自立に結びついていくと思われる。